602.15
N27
602.15-N27-3ウ
1200500747848

古屋ノ産業

名古屋商工會議所編

始

917
448

名古屋ノ産業

名古屋商工會議所

602.15
N27
3

目次

一、名古屋の產業概觀……一
二、市勢……三
三、經濟上の地位……三
四、工業概觀……四
(一)工業發展の條件——(二)最近に於ける工業の趨勢——(三)重要工產品
五、商業概觀……五
(一)物品販賣業——(二)取引所——(三)倉庫——(四)市場
六、貿易概觀……七
(一)名古屋の輸移出入貿易——(二)重要商品輸出入狀況——(三)主要貿易國——(四)圓域貿易
(五)南洋貿易
七、其他の產業……八

發行所寄贈本

917
118

(一)養鷄業——(二)農業——(三)水產業……四〇
八、金融概況……四六
(一)銀行——(二)信託——(三)保險——(四)無盡——(五)質屋——(六)商工組合中央金庫支所
(七)信用組合——(八)國民更生金庫支所——(九)庶民金庫支所——(十)郵便貯金
九、交通通信概況……五三
(一)鐵道——(二)市內電車及バス——(三)郊外電車——(四)通信概況
十、勞働概況……五六
(一)勞力需給狀況——(二)賃銀及生計費
十一、消費事情……五九
十二、會社……六三
十三、組合……六四
十四、商工業指導助成機關……六八
(一)實業教育の機關——(二)商工業指導施設——(三)機械工の養成施設
十五、商工會議所の事業……八一
(一)商工業指導斡旋に關する事業——(二)商工業改善發達の爲の施設——(三)其他の事業
(四)本所に事務所を置く附屬團體
附錄、市內名勝……八一
(一)神社佛閣——(二)公園——(三)名古屋城、德川園、德川美術館——(四)名古屋港、
名古屋國際飛行場——(五)商店街、盛り場

名古屋の産業

名古屋商工會議所

一、名古屋の産業概觀

觀光都市名古屋、城でもつた名古屋は昔のこと、工業に據つて立つ名古屋である。保守的傳統のヴェールをかなぐり捨て躍進日本と共に伸びゆく工業王國名古屋である。

人口百三十二萬八千人（昭和十五年）工業生産額十億六千萬圓（十四年）であつて、その盛大を表現してゐる。當市は市制施行以來五十有餘年を經、都市の歴史として必ずしも若い方ではない。併し、今日新興巨大都市として中京名古屋の名が國際舞臺に大きく、クローズアップされるに至つてゐる所以は特に最近數ケ年に於ける本市産業が他の何れの都市にも見ざる驚異的發展を遂げ、而

も尚自然的經濟的條件に於てまだ發展の十分の餘地を殘して多望な將來が展開されることである。

名古屋を中心とする中京工業地帶は從來綿糸、綿織物、毛糸、毛織物等の紡織工業を中心に展開し、一切の中京文化はこの紡織文化に織り込まれて展開し來つたが、事變勃發以來重工業中心の生産の大きな旋廻を經て、本地帶の相貌はこゝに全く一變し、更に米英を敵として相戰ふに至つては一層の大變化を見せつゝある。航空機、自動車、工作機械其の他軍需品等製造に見る近代精密工業の勃興とその誇るべき産業技術の成長普及は本地帶の精密産業化を促進し、今やこゝに大東亞共榮圏建設への工業推進力の活潑な脈搏が感ぜられるのである。

名古屋はこれ等衞星都市を統轄する中心都市として相互緊密な連絡の下に置かれた、いはゞ廣域工業化としての中京工業地帶を完成せんとしつゝある。更に又名古屋を含むかゝる地帶は廣大な中部日本全體の産業に強い繋りを持つてゐる。特に日滿ルートの據點、北陸地帶に榮ゆる新興重化學工業とも連繋して相互に良き促進をなしてゐることは勿論、今後この日滿ルートを通じて大陸經濟更に南方經濟の息吹きはぢかに中部日本經濟の心臟部たる名古屋に交流するであらう。

二、市　勢

昭和十五年十月に於ける本市の面積は百六十平方粁一三三、人口は百三十二萬八千八十四人であるが、之を明治二十二年十月市制施行當時の十三平方粁三三五、十五萬七千人に比較すれば、面積は約十二倍、人口は約九倍といふ飛躍的增加を遂げてゐる。

三、經濟上の地位

本市の全國に於いて占める經濟上の地位は左表の如く人口は東京、大阪の兩市に次ぎ第三位、手形交換高は東京、大阪、神戸の三市に次ぎ第四位を占める。

六大都市の人口及手形交換高

	人口	手形交換高
名古屋市	一、三八、〇八四人	六、六九二、三三八千円

東京市	六、七六八、八〇四	五七、〇三九、五九八	四
大阪市	三、二五二、三四〇	四三、二八四、三三七	
京都市	一、〇八九、七二六	三、二五七、八六五	
横濱市	九六八、〇九一	二、三五五、二四一	
神戸市	九六七、二三四	八、三二二、七〇九	

（註）1　人口は昭和十五年十月一日國勢調査に據る。
　　2　手形交換高は銀行通信錄に據る。

四、工業概觀

最近に於ける都市の消長は主として工業の盛衰に依存してゐる場合が多いといふ事は一昨年實施された國勢調査の結果を俟つ迄もなく明かである。

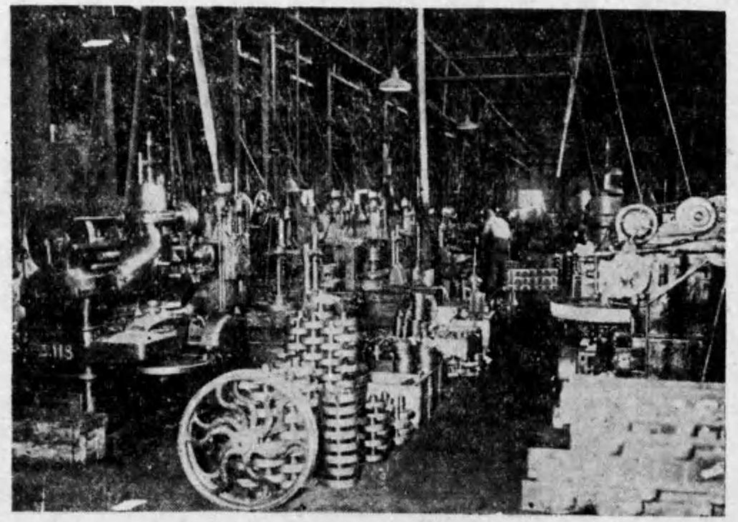
本市は商業都市でもなく貿易都市でもなく況や觀光都市でもない。本市の特色を一言にして言へば工業都市と稱することが最も妥當と思はれる。

（一）工業發展の條件

本市は何故此のやうに工業が發展したか、それには次に述べる如き種々の理由がある。

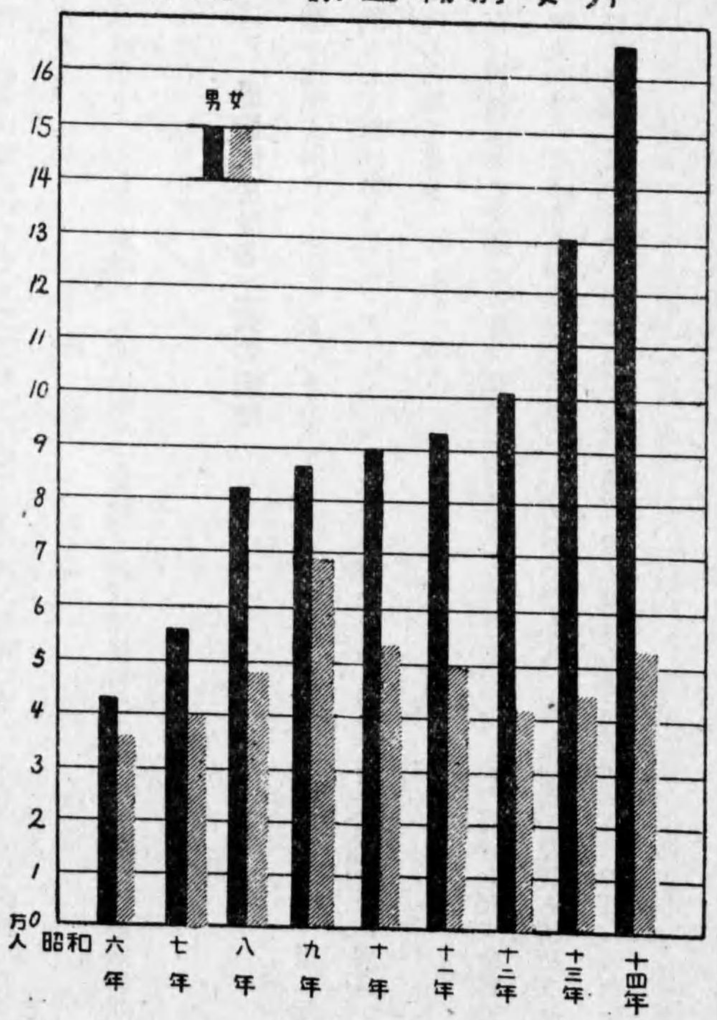
本市は廣大な濃尾平野を背後に控へ工場の敷地に惠まれてゐるが、之は工業都市名古屋の洋々たる前途を約束する最も重要な條件といへる。

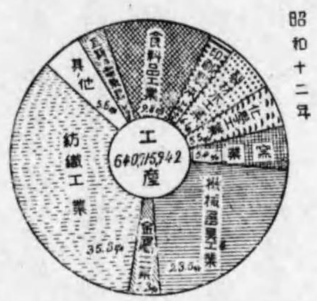
次に肥沃なる大平野に產する農產物、畜產物が安價且豐富に得られるのみならず、海陸の交通が至便であるから他地方より輸送せられる物資も極めて容易に獲得し得るといふ地理的な優越性に加ふるに、當地方獨特の堅實な氣風によつて生計費は一般に低廉で濟み、此の結果他地方に比較し勞銀の水準は稍々低い利點が擧げられる。

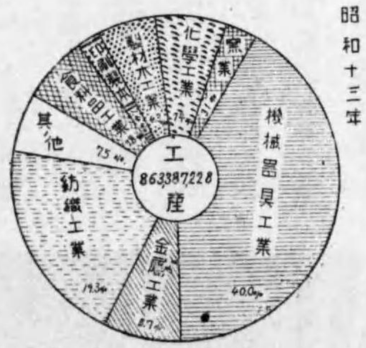


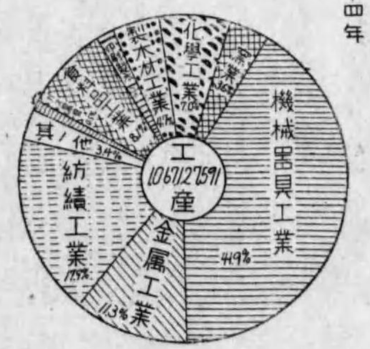
機械工場

男女別職工數の趨勢


男
女
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
万人
昭和六年
七年
八年
九年
十年
十一年
十二年
十三年
十四年


昭和十二年
工産
640715942
紡織工業
35.0%
機械器具工業
35.0%
其他
5.6%


昭和十三年
工産
863387228
紡織工業
19.3%
機械器具工業
60.0%
金屬工業
8.7%
其他
7.5%
化學工業
窯業


昭和十四年
工産
1067127591
紡績工業
17.5%
機械器具工業
41.9%
金屬工業
11.3%
其他
3.4%
化學工業
7.6%
木材工業
窯業

次に本市の濕度は好適にして水質良好、殊に工業用水が豐富であつて古來天災が稀である點も非常な强味である。

最後に本市を中心として海陸の交通は極めて整備され、原材料の運搬に、製品の輸送に頗る便利である點も忘れてはならない。

(二) 最近に於ける工業の趨勢

我國全體の傾向と同じく本市に於いても重工業の隆盛と輕工業の沈滯は免れ難い。但し近來注目すべき現象として擧げ得る事は、重工業の內容が多少變化を來し、金屬工業の急激な躍進が驚異的となつてゐる點であらう。

從來本市は機械工業こそ相當な程度迄發展を見てゐたのであるが、その根幹をなす金屬工業に於いては微々たるもので多年その發展が要望されてゐたのである。蓋し高度の性能と精巧さを要求する精密機械の製造に當つては、先づ以てそれに耐へ得る素材の供給が確保されねばならないからである。

近來特殊鋼、輕金屬の大工場が或は擴張され或は新設される盛況は當地方の重工業が如何に高度化しつゝあるかを如實に物語るものである。

尙工場の規模は漸次增大する傾向が最近顯著に見られるが、重點主義の徹底に伴ひ一段と促進されるであらう。

本市工業の全貌を表示すれば左の如くである。

本市工業の現勢

	工場數	百分比	職工數	百分比	生產額	百分比
總數	六、一六六	100.0%	一九一、六六一人	100.0%	一、〇三五、〇五〇千円	100.0%
金屬工業	七四三	一三.〇	一六、六八〇	八.七	一二五、九四四	一一.二
機械器具工業	一、六八三	二七.二	一〇四、九六六	五四.八	四二九、五四六	四二.三
化學工業	一八七	三.〇	六、七八五	三.五	七一、四〇二	七.五
瓦斯及電氣業	四	〇.一	五三三	〇.三	五、五七五	—
窯業及土石工業	二〇九	三.三	九、九九五	五.二	三七、二一九	三.三
紡織工業	一、二八六	二〇.九	三一、四九〇	一六.四	一八三、九二六	一八.〇
製材及木製品工業	七二二	一一.七	八、一九七	四.三	四八、三九六	四.七
食料品工業	五七〇	九.三	五、八八五	三.一	八三、〇一〇	八.一
印刷業及製本業	二二〇	三.六	二、七五〇	一.四	一五、二七一	一.五
其他の工業	五四二	八.八	四、三八〇	二.三	三四、七六〇	三.四

（註）昭和十四年現在の職工五人以上の工場の統計

工業生産額

昭和十二年	六四〇、九一六千円 (100)
同 十三年	八九四、一二一 (一三九)
同 十四年	一、〇六七、一二八 (一六六)

機械器具金屬化學工業の生産額の總生産額中に占むる割合

昭和十二年	二五一、七四二千円 (三九・三%)
同 十三年	五〇二、〇一七 (五六・一%)
同 十四年	六二五、三三二 (五九・二%)

名古屋、大阪及神戸工業構成比 (昭和十三年)

	名古屋 八億六千萬圓	大阪 二五億四千萬圓	神戸 七億六千萬圓
總額	一〇〇	一〇〇	一〇〇
紡織	二〇	七	二
機械	四一	一四	二九
化學	八	一六	一〇
製材	四	二	一
印刷	一	三	二
食料品	八	三	九
金屬	九	三八	四三
其の他	九	七	五

本市産業構成比重

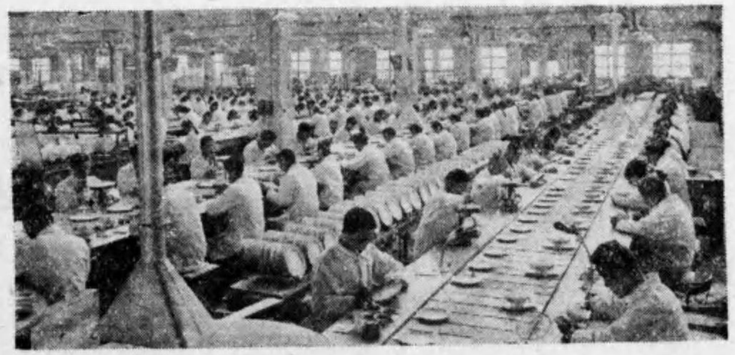
	紡織	機械金屬化學	其他
昭和七年	五一・〇	一六・七	三一・三
同 八年	四一・六	二三・四	三六・〇
同 九年	四三・九	二三・二	三二・九
同 十年	四〇・八	二五・八	三三・四
同 十一年	三九・二	二七・六	三三・二
同 十二年	三〇・七	三九・三	三四・〇
同 十三年	一九・三	五六・一	二四・六
同 十四年	一八・一	五九・二	二三・七

昭和七年まで名古屋産業の樞軸たる紡織工業が全工業の過半數を占めてゐたが、八年から時局産業に壓倒されて昭和十二年には其の地位を轉倒するに至り、更に十三年には其の進展振りを發揮し五六%となり、十四年には五九%と飛躍した。

而して此の趨勢は大東亞戰を契機として斯業の躍進は益々要請されてゐる。

(三) 重要工産品

年産額三百萬圓以上の本市工業生産品を列擧すれば次の如くであつて三十五種目に上つてゐる。(但し昭和十三年の事實による)



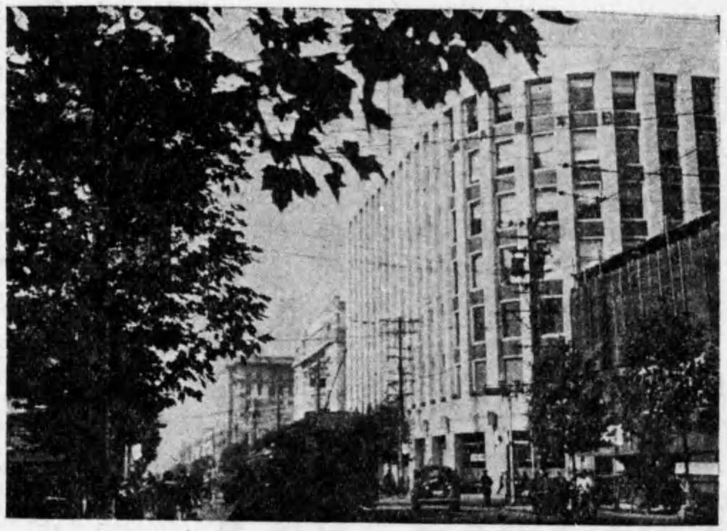
陶器工場

市内重要工産品

品目	生産額 千円	百分比 %
(一) 原動機	七九、八二六	八・九
(二) 紡績	七七、一五六	八・六
(三) 金屬製品(鑄物ヲ除ク)	四九、〇四三	五・五
(四) 車輛	四二、三三	四・七
(五) 製造加工用機械器具	四〇、三三六	四・五
(六) 綿織物	三三、九四一	三・八
(七) 飼料	三〇、七一〇	三・四
(八) 鑄物	二七、〇〇八	三・〇
(九) 製粉	二五、九九六	二・九
(一〇) 木製品	二三、七六九	二・七
(一一) 電氣機械器具	二〇、七五六	二・三
(一二) 製材	一八、七五四	二・一
(一三) 菓子	一八、二八一	二・〇
(一四) 陶磁器	一六、四四三	一・八
(一五) 工業藥品	一五、六〇六	一・七
(一六) 毛織物	一四、一七二	一・六
(一七) 肥料	一三、四七一	一・五
(一八) 印刷	一三、一八二	一・四
(一九) メリヤス	一三、三五三	一・四
(二〇) 釀造	一二、〇九二	一・四
(二一) 染色精練漂白	一一、六六五	一・三
(二二) 人造絹糸	一一、〇八六	一・二

品目	生産額 千円	百分比 %
(二三) 裁縫	一〇、四七八	一・二
(二四) 紡織機械器具	九、二四二	一・〇
(二五) スフ織物	七、九七六	〇・九
(二六) 紙製品	七、四三四	〇・八
(二七) 醫療材料品	六、五四〇	〇・七
(二八) 製綿	六、二四六	〇・七
(二九) 採鑛、選鑛、精練機械器具	六、〇九九	〇・七
(三〇) コークス	五、八五五	〇・七
(三一) 時計	四、三九一	〇・五
(三二) 撚糸	三、六四九	〇・五
(三三) 調車、歯車、車軸	三、四八〇	〇・四
(三四) 煉炭	三、三四七	〇・四
(三五) 製藥	三、〇〇三	〇・三

尚右の外本市の特産品としては七寶、一閑張、佛檀、提灯、扇子、樂器、漬物、輸出玩具等が數へられる。



廣小路通

五、商業概觀

本市の工業は全國的に有數の地歩を占めるが、商業は未だ地方的中心地の域を出してゐない。之は西に商業都市大阪を控へ、東に產業都市東京を持つ地理的關係上、名古屋の商業は兩者の挾擊を受けて勢力範圍は著しく極限されるの止むなき事情にあるからである。

(一) 物品販賣業

(イ) 業態及業種

本市の店舗數は昭和八年の調査では三萬二千七百三十であつたが、同十四年の調査の結果に據れ

ば四萬七千七百十四に達し、僅々六年間に約一萬五千の增加を遂げ、こゝにも本市の發展的傾向が窺はれる。之を業態別に見ると小賣商は全店舗數の六割一分を占め、此の割合においては神戸、横濱に次ぐ第三位、卸商は一割一分を占め第四位、卸小賣は八分五厘の割合で東京と近似し、他都市を拔き、本市商業の特異性を示す。

六大都市店舗數比較

	名古屋市	東京市	大阪市	京都市	神戸市	横濱市
小賣商	二九、〇九二	一三、四四四	七〇、五八三	二五、三六八	三、一二	一七、七五六
百貨店	六	二六	一	一	三	四
生產小賣商	五、一六八	二三、四八四	九、一六五	四、六三三	二、八九七	四、三四
卸小賣商	四、〇四二	一八、八九五	七、四九五	三、二四一	二、三二九	一、八二九
露店行商	二、九三九	二、六七一	六、七八九	二、六二一	二、六五四	一、六二八
卸商	五、三四五	二八、五五一	二三、九二三	六、〇二五	三、六三五	二、六八六
貿易商	一七四	四四四	一、一六五	四二	一、〇六二	二四八
產業組合	四二	六八	二六	一六	一六	二七
消費關係ノ共同販賣	七	五四六	一七二	一三四	六一	七六
其他ノ購買及共同販賣	七六	二六九	一〇〇	三七	四二	四九
物品賣買ノ仲介	七五三	二、四八九	一、八七七	三五四	三五二	二〇八
合計	四七、七一四	三九、八八七	二三、三〇六	四二、五〇二	三四、二六二	二八、八二五

（註）昭和十四年八月一日實施の臨時國勢調査に據る。

同じく右の調査に據れば物品販賣業の業種は菓子パン類が最も多く、全體の一割五分を占め、次いで野菜果物類といふ順序である。左に重要業種とその商店數を掲げる。

市內主要物品販賣店數

業種	商店數	業種	商店數
菓子パン類	六、八九三	其他ノ飲食料品	三、五〇八
野菜果物類	二、五二三	酒類、調味料、清凉飲料	二、二八五
呉服織物	二、一七一	古物類	一、七九二
和洋服類	一、七六五	荒物雜貨	一、七〇〇
米穀	一、六五五	鮮魚介類	一、六四一
紙、紙製品、文房具	一、四六二	履物、和傘類	一、二九六
薪炭	一、二八四	醫藥品類	一、二六三

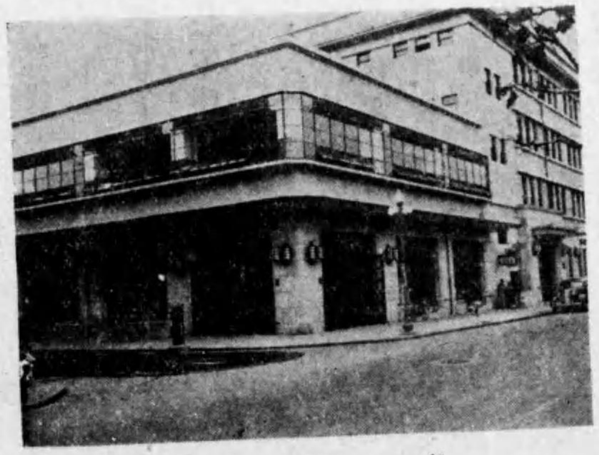
家具指物類	一、一〇二
洋品雜貨	一、一八六
車輛類	一、〇六六
其他ノ物品	一三、四三
總數	四七、七一四

(ロ) 卸商の現狀

右の調査と多少矛盾はあるが、資源調査法にもとづく名古屋市の卸賣商業調査の結果に據れば、本市の卸商の現狀は左の如くである。

市内卸賣商總覽

營業所數	六、〇三九	
從業者數	一三、二八〇	(一〇〇・〇%)
男	二七、七六五	(八三・四)
女	五、五一五	(一六・六)



商工館

營業資產	四三、七三二、三七七	円
營業負債	二三四、五四五、五八五	
營業收入	一、八三一、六八二、七五七	(一〇〇・〇%)
卸賣	一、四二九、一八九、九三三	(七八・〇)
小賣	二五三、二四三、〇二八	(一三・八)
其他ノ營業收入	一四九、二四九、七九六	(八・二)
仕入價額	一、七一四、九〇七、九八四	(一〇〇・〇)
販賣用商品仕入價額	一、五八六、一五八、三四三	(九二・五)
其他ノ仕入價額	一二八、七四九、六四一	(七・五)
營業費	八二、三五六、四一九	
手持品價額		
期初	一二六、三三九、六六二	
期末	一四〇、四九九、四五一	
仕入商品平均	一二六、三九八、一三八	
損益金額	五八、三七八、一四三	

(註) 昭和十四年名古屋市調査に據る。

尙右の調査に據る業種別の概況は左の如くである。

市內卸賣商主要業種別商店數

	營業所數	從業者數	卸賣價額
	軒	人	千円
木材及竹材	三二五	一、九一四	五七、九九三
菓子パン類	二八一	一、〇五二	二四、九四九
鮮魚介藻類	二五八	九八〇	一五、八九四
和洋服類	二三二	九二三	一九、七七九
スフ織物	二〇七	一、一二九	九二、一九八
メリヤス	一八二	一、二七八	四八、二三〇
絹織物	一六五	一、三八二	七二、三七二
砂糖、味噌、醬油、其他ノ調味料	一六〇	八〇四	九八、三六九
小間物	一四六	七〇七	一三、五六八
酒類	一三九	七四八	一四、七四三
醫藥、類及賣藥衞生材料	一二四	九八五	二六、六二四
水產加工食料品	一二〇	七一二	二四、八〇一
紙	一二四	八二〇	四四、五四七
下駄及草履	二二四	四五九	一〇、一七四
鐵鋼	一〇八	三八八	三六、六三九
其の他	三、三六四	一八、九九九	八三、三一〇
合計	六、〇三九	三三、二八〇	一、四二九、一九〇

（註）昭和十四年名古屋市調査に據る。

尙卸商の企業組織は個人八三・九%、法人一六・一%の構成を示し、又販賣先は小賣商六四・九%、卸商三四・三%、貿易商〇・四%、外地〇・三%、其他〇・一%といふ割合となつて居り、更に兼業關係に就いては專業四六・七%、兼業五三・三%の割合を示す。

名古屋市小賣商賣上高の趨勢

戰時下に於ける當市民の購買力の變遷、市中小賣商對百貨店の關聯性を眺めてみるに、支那事變の當初に於ては、國防產業の殷盛に依り、インフレーションの浸潤は次第に濃厚となり、大衆の購買力は加速度的に增大し、十三年五月を基準とせる百貨店の賣上高指數は十四年同月一割七分、十五年は五割一分を膨脹してゐる。これに對し、商店街のそれは、十四年同月五分、十五年二割四分

の増率となつてゐる。蓋しそれは物價の値上りもさることながら、ストックの手持によつて、殆んど數量的にも減少しなかつたからである。殊に百貨店に於てはかうした傾向が強い。事變にも拘らず生活水準が低下しなかつたことを意味する。十五年の後半期に入るとやうやく深刻なる様相を呈出し、七・七禁止令、暴利取締令の強化などにより、公價違反續出した。當時取締當局の方針は大物主義の行き方をしたゝめ、百貨店の賣上高は激減した。これを數字によつてみるに八月に於ては六九、九月は六〇、十月は八二と低下したのである。

當時百貨店賣上高激減の反動として、商店街は大盛況であつた。これによつてみるに、兩者に吸引される購買力なるものは、その性格は異なるも、本質的には必ずしも別個のものでないことがわかる。百貨店の賣上高指數は其の後可なり順調に恢復に向つた。十月の八二、十一月の九七はまだ創痍癒えずの感あるも、十二月の一九五は、十四年十二月の最高指數には及ばないが十三年十二月の壘を摩すところまで至つて居る。十六年に入つては、一月、二月は平凡に終始して、漸次好況に向ひ、六月の一三九、七月の一五八は例年に比し必ずしも不滿足なものではない。一方小賣商はどうであるかを見ると、九月稍反動に見舞はれたのを除けば、十月、十一月と順調に推移し、十二月の一八六は商店街商店に於ける新記録を成してゐる。

十六年に入つては前半期は大體平年並に推移したが、資産凍結令以後は明らかに異變あるを思はしめるものがある。即ち百貨店に於ては九月は一二九、十月は一三四と低下した。十一月に於ける兩者の賣上高指數の激増は増税のための買溜めによる。十二月に入つては大東亞戰の勃發をみるに至り、時局はいやが上にも重大化した。こゝに於いてか十七年二月には衣料切符制の實施をみるなど消費規正は益々强化せられ、業績は急激に低下しつゝある。

名古屋市小賣商賣上高指數（基準昭和十三年五月）

	十三年		十四年		十五年		十六年	
	商店街	百貨店	商店街	百貨店	商店街	百貨店	商店街	百貨店
一月	一	一	一〇三	一一四	一一七	一三六	一三七	一一〇
二月	一	一	九〇	一〇八	一一三	一三一	一一四	九六
三月	一	一	一〇五	一四七	一一三	一三一	一一八	一一五
四月	一	一	一一七	一一〇	一一〇	一四〇	一四六	一一八

五月	一〇〇	一〇〇	一〇五	一一七	一二四
六月	一〇四	一二五	一〇五	一二三	一三五
七月	一〇三	一一一	一〇九	一二三	一四〇
八月	八九	七一	一〇一	八七	一二九
九月	九一	七八	一〇六	九九	一二〇
十月	一〇一	一〇五	一一七	一二六	一二五
十一月	一〇四	一二三	一二三	一二三	一二一
十二月	一四四	一三九	一六八	一二四	一八六	一九五	一八五	一二八	一三六

(註) 本所調査に據る。

(二) 名古屋株式取引所

名古屋株式取引所は東京や大阪のそれに比して地方的色彩が濃厚である。而も取引員組合の勢力強固にして取引所が取引員組合に支配されてゐるかたちである。

時局の嵐は自由の殿堂たる取引所にも吹きまくり、其機構改革は今や焦眉の問題となつてゐる。

名古屋株式取引所株式清算取引及受渡高 (自昭和十一年七月至十二年六月一ヶ年基準)

	賣買高		受渡高	
	株數	金額	株數	金額
昭和十六年 一月	八四	六二	七五	七七
二月	八〇	六〇	七〇	五九
三月	九九	七八	五八	七六
四月	九五	七七	八八	七一
五月	七八	六五	二六	九八
六月	八〇	六五	七三	五八
七月	一三六	一〇三	一一	八二
八月	六八	四八	九四	七三
九月	九五	六八	九七	七八
十月	六六	四八	八二	六三
十一月	六九	五一	一〇二	八五
十二月	二四一	一〇七	二七八	二〇四

(三) 倉　庫

現在市内に於ける營業倉庫の主なるものは東陽、東神、川西、四日市、名古屋運搬、鐵道の六倉庫にして、他に農林省の米穀倉庫、名古屋港の愛知縣營倉庫がある。前記六倉庫の貨物出入の概況は左記の通りである。

市内倉庫貨物出入の概況

	入庫高	出庫高	殘高
昭和十二年	二〇、九二一、〇三三円	一九、八〇六、九九一円	五〇、二二七、一四七円
同　十三年	二四、七二一、二九〇	一五、〇〇〇、三五九	三七、一七二、六四五
同　十四年	一八、七九八、六七五	一八、二〇八、六六六	四一、七八五、三二四
同　十五年	二四、五八八、〇六四	三一、一〇〇、七五七	七二、四四三、六七九

(註) 本所調査に據る平均評價額

(四) 市　場

(イ) 卸賣市場　本市に於ける生鮮食料品卸賣市場は、熱田の魚市場、枇杷島の青物市場を始め十三市場あり、この昭和十五年中の販賣高は五五、二七一千圓に達し、前年に比し一四、四五三千圓を増加した。

(ロ) 小賣市場　次に本市の公設市場は、現在十四市場を有してゐるのであるが、これが昭和十五年中の販賣高は三、九三五千圓を算し、前年中の販賣高三、四二六千圓に比し五〇九千圓の増加を見た。尚私設市場は昭和十五年末現在に於て總數八十八市場を算し、昭和十五年一ヶ年間の總販賣高は一二、四九九千圓に上り、前年に比して二、六七五千圓の増加を示してゐる。

六、貿　易　概　觀

當地方の貿易は阪神及横濱の三港を經由して行はれるものも少くないが、最近名古屋港の改修工事が進み諸施設が整備せられるに及んで、漸次此の港の利用が増進してゐる。

本市の工産額十億圓の中その一割に當る一億圓が海外に輸出せられてゐるが、此の中六割五分は名古屋港を經由するものであり、阪神兩港は各一割三分、其他の港は九分の割合を示す。

現在名古屋港の貿易額は横濱、神戸、大阪、門司に次ぐ本邦第五位に位置し、昭和十四年には二

億二千萬圓に達した。

(一) 名古屋の輸移出入貿易

(イ) 內國貿易

年次	移出	移入	合計
昭和十年	五七、二〇五、一七五円	一四九、二二二、八一四円	二〇六、三二七、九九九円
同　十一年	六五、八五九、五九九	一六八、四六六、〇〇五	二三四、三〇五、五九四
同　十二年	八〇、二四二、四〇七	二二五、七〇五、八七四	二九五、九四八、二八一
同　十三年	八三、九五七、一〇〇	二三八、六七九、五五五	三二二、六三六、六五五
同　十四年	八九、五七、三二七	二四〇、九二二、三二四	三三〇、五四三、六二一

(ロ) 外國貿易

年次	輸出	輸入	合計
昭和十年	二二九、四七八、二六六円	九五、五二六、五二〇円	三二五、〇〇六、六四九円
同　十一年	二三二、五〇〇、九六一	一〇八、二二二、〇二四	三四〇、一二八、〇三五
同　十二年	二四七、四〇九、三五五	一四八、三二八、五六六	三九五、二二六、一九一
同　十三年	二二五、一〇一、二二五	二四七、二二六、〇〇五	四七二、二二七、二二〇
同　十四年	二四七、八二一、六九二	二六六、二〇五、二二六	五二二、二二六、八四五

(ハ) 總貿易

年次	移輸出	移輸入	合計
昭和十年	一八六、六六三、三〇一円	二四四、六五二、三二四円	四三一、三三四、六三五円
同　十一年	一九二、三四〇、五五〇	二二二、二四三、〇二九	四二四、五八三、六二九
同　十二年	二三八、二五二、八〇二	二六四、〇四六、二七〇	五九二、二八六、四二二
同　十三年	一九九、〇五八、二二五	二二二、八〇五、五六〇	五二二、八六三、二二五
同　十四年	二三四、四二一、九四六	二二二、六二二、五三〇	五五三、二二〇、四二六

(二) 圖域貿易

年次	輸出	輸入
昭和十年	二、八四三、二六六円	一、八二五、三二三円

同　十一年	二一、二五七、〇〇六	二一、三六四、八三九
同　十二年	二七、六六三、三三六	二三、五二五、二七九
同　十三年	四〇、九八二、一一八	二七、二七一、二八九
同　十四年	六二、六二〇、〇九一	三四、八五一、七九五

（二）重要商品輸出入狀況

昭和十四年中の名古屋港に於ける重要貿易品の狀況を示せば輸出に於いては左表の如く陶磁器が首位を占め綿織物が第二位にあり、以下毛織物、合板、小麥粉、鐵道用車輛の順位であり、輸入に於いては羊毛王座に位し油粕、玉蜀黍、高粱の順位である。總括的に云へば輸入品は品種少き割合に金額の多いのを特徴とし、又輸出品は種類多く金額が少い點に於いて本市の輸出産業が加工業を主とする特性を顯示してゐる。

名古屋港重要商品輸出入金額

輸出	昭和十三年 千円	昭和十四年 千円
綿織物	三二、一三二	三四、四七二
陶磁器	二八、七三五	三四、四四九
毛織物	四、四〇三	五、七七九
合板	一、八九八	四、四九四
小麥粉	四、六九二	三、七六六
鐵道用車輛	四、二二二	三、七五三
箱用板	二、八七四	三、〇三四
玩具	三、一九六	二、八七〇
紡織機	五、四四七	二、七四八
鐵製品	一、七五一	二、三六九
人造絹糸	六三二	二、一五六
其他	二五、一三〇	四四、九八二

輸入	昭和十三年 千円	昭和十四年 千円
羊毛	三二、三九六	一四、六八二
油粕	五、三〇八	八、四九五
玉蜀黍	五、二八五	六、七五九
高粱	一、九八三	四、五七〇
木材	三、五六六	四、一五三
豆類	三、九三六	三、四七八
飼料	一、四五九	二、八五九
石炭	五、二五九	二、四六六
植物繊維	九九四	一、七九八
採油用種子	七〇六	一、六四七
繰綿	五三三	一、二〇
其他	二二、七二二	二四、七二四

合計	二五、一〇一	一四、八七二	合計	七四、二六	七六、七〇五

（註）本所調査に據る。

（三）主要貿易國

貿易品の輸出入先を瞥見すると輸出に於いては滿洲國第一位を占め、關東州が之に次ぎ以下英領印度、中華民國等の順序であり、又輸入に於いては滿洲國が群を抜き第二位濠太剌利、以下北米合衆國、英領印度等が主要なるものである。

尙右の數字は關滿支輸出調整令の施行によつてその後は相當な程度迄訂正を加へられてゐる筈である。

名古屋港國別輸出入額

國別	總數	百分比	輸出額	百分比	輸入額	百分比
滿洲國	五二、三八五千円	三六・六%	二四、〇四五千円	一六・六%	二八、三四〇千円	三六・九%
關東州	二五、八一八	一二・六	一三、一五五	一五・九	二、六六三	三・五
北米合衆國	二三、三五九	一〇・六	一二、六六一	八・七	一〇、六六八	一三・八
英領印度	二一、三一五	九・六	一九、九一〇	一三・七	一、四〇五	一・七
中華民國	一九、一六八	八・七	一五、四一〇	一〇・七	三、八四八	五・〇
濠太剌利	一七、三一八	七・八	三、六一六	二・五	一三、六九二	一七・九
蘭領印度	一二、〇〇九	五・四	九、八五三	六・八	二、一五六	三・一
南阿聯邦	四、四〇三	二・〇	三、八六四	二・七	五三九	〇・七
比律賓	三、六七〇	一・六	八七一	〇・七	二、七九九	三・六
佛領印度支那	三、一三一	一・五	一〇七	〇・一	二、九二五	三・八
其他	三八、九〇〇	一七・六	三一、二三〇	二一・五	七、六七〇	九・九
合計	二二一、五七七	一〇〇・〇	一四四、八七二	一〇〇・〇	七六、七〇五	一〇〇・〇

（註）本所調査に據る昭和十四年の事實。

（四）圓域貿易

今次事變勃發後は第三國貿易が不振に陥つた反面、圓域貿易は次の如く急增してゐる。

名古屋港對圓域貿易の趨勢

		滿洲國	關東州	中華民國	圓ブロック	第三國
昭和十二年	輸出	七、九五二千円	二、〇〇四千円	八、七〇七千円	二七、六五九千円	二三〇、二五〇千円
	輸入	一八、三六六	八三五	四、三二五	二三、五二六	二三四、八〇二
昭和十三年	輸出	二二、四一六	二五、四四五	一三、一二九	四〇、九八〇	七四、一二二
	輸入	二三、七五〇	二、四八九	二、〇三二	二七、二七〇	四六、八五六
昭和十四年	輸出	二四、〇四五	三三、一五五	一五、四二〇	六二、六二〇	八二、六二〇
	輸入	二八、三四〇	二、六六三	三、八四八	三四、八五二	四一、八五四

(註) 本所調査に據る。

名古屋港對圓域主要貿易品

滿洲國	輸出品	陶磁器、毛織物、合板、スフ織物、小麥粉、ブランケット
	輸入品	油粕、高粱、豆類、採油用種子、植物繊維、飼料
關東州	輸出品	小麥粉、陶磁器、麻袋及綿袋、合板
	輸入品	飼料、油粕
北支	輸出品	陶磁器
	輸入品	石炭
中支	輸出品	陶磁器、麥酒
	輸入品	—
南支	輸出品	—
	輸入品	—

(註) 本所調査に據る昭和十四年の事實。

(五) 南洋貿易

東亞共榮圏の確保が我國政治經濟の死活問題として論議される今日、名古屋港と南洋との貿易上の關係に言及して見やう。

先づ最近の輸出は事變勃發の昭和十二年には二千五百萬圓に垂んとする巨額に達したが、其後此處に根據地を置く華僑の跳梁あり、政治の支配權を掌握する英、米、佛、蘭等の諸國の指嗾による壓迫あり、此の輸出市場は攪亂と動搖を續け、其の結果輸出も急減するに至つた。

名古屋港對南洋貿易の趨勢

	輸出	輸入	合計
	千円	千円	千円
昭和十二年	二七、七二七	一五、七八三	四〇、五〇〇
同　十三年	一三、一五二	八、一三〇	二一、二八二
同　十四年	一五、五八五	八、六四〇	二四、二二五

（註）本所調査に據る。

名古屋港南洋貿易の日本南洋貿易に占むる割合

	輸出 名古屋	輸出 全國對比	輸入 名古屋	輸入 全國對比	總額 名古屋	總額 全國對比
	千円	%	千円	%	千円	%
昭和十二年	二四、七二七	六・四	一五、七八五	四・二	四〇、五〇二	五・三
同　十三年	一三、一五二	四・一	八、一三〇	三・〇	二一、二八二	三・六
同　十四年	一五、四八四	六・六	八、六四〇	二・九	二四、二二四	四・五

（註）本所調査に據る。

次に對南洋貿易を國別に見れば左の通りである。

名古屋港對南洋國別貿易

	輸出	輸入	合計
	千円	千円	千円
佛領印度支那	二〇七	二、九二六	三、一三三
泰國	二、三三六	三九八	二、七三四
英領馬來	二四	三一	五五
海峽植民地	一、〇六〇	三三	一、〇四三
緬甸	一、二〇五	—	一、二〇五
比律賓	八七一	二、七九九	三、六七〇
英領ボルネオ	二九	二九七	三二六
蘭領印度	九、八五三	二、一五六	二、〇〇九
合計	一五、五八五	八、六四〇	二四、二二五

（註）本所調査に據る昭和十四年の事實。

右の表によれば蘭領印度が南洋の中で最大の市場で實に五割の割合を占めてゐることが分る。左に南洋の代表として蘭領印度の一國を取り上げ、如何なる商品が輸出されてゐるか一瞥を與へることにする。一年十萬圓以上の輸出品左の如し。

名古屋港對蘭領印度品目別輸出

綿布類	四、六四六、三〇八円	陶磁器	二、七九、〇三〇円
硝子	三二、四〇四	人造絹絲	三三、九三六
綿織絲	一五六、一〇三	自轉車	二四、二三〇
時計	一〇三、三八〇		

（註）本所調査に據る昭和十四年の事實。

七、其の他の産業

（一）養鶏

本市の養鶏業は極めて隆盛であつて、本邦の中樞をなし、養鶏名古屋の稱あるも宜なるかなである。その産卵は東西市場に出されるばかりでなく、遠く海外にも輸出されてゐる。

昭和十六年八月現在の養鶏戸數は一千有餘戸を算し、此の中五百羽以上を飼養する戸數は二百十八軒に上る。同じ時期に於ける飼養鶏數は四十一萬八千七百三十一羽に達する。又産卵個數は一年に三千九十五萬四千七百有餘個の多數に上る。

更に市内に十五戸を數へる孵化業は著名で初生雛の産額も少くない。

尙肥料不足の今日從來捨てゝ顧られなかつた鶏糞が肥料となるので賣行が良く、年額十六萬俵が之に利用されてゐる。

最近の養鶏界の趨勢としては戰爭の影響により滿洲、佛印、泰國より輸入して居た飼料が激減した爲め當分の間業績は芳しくないだらう。

（二）農業

本市が工業都市として發展する必然の結果市内の耕地面積は逐年減少の傾向を示し、農家は他の事業と兼業し、兼業者は他業に轉ずる事例が頻出してゐる。現在殘されてゐる農家で花弄野菜の促成栽培の如きを經營する者次第に多きを加へるに至つた。

（三）水産業

當市の水産業は主として水産製造物を指し、之が全體の七割の高率を占める現狀である。昭和十五年に於ける全水産々額は四百八十二萬一千四百十圓を算してゐる。

八、金融概況

最近に於ける本市の金融界には次の二つの特記すべき事柄がある。

即ち昭和十五年に三井、三菱、住友の三信託會社が殆ど時を同うして本市に支店を開設したことがその一つである。他の一つは本市に本店を有する愛知、名古屋、伊藤の三銀行が合同して昭和十六年六月より東海銀行の名稱で創立開業することになつた事であつた。

新銀行は資本金三千七百六十萬圓、預金總額八億九千萬圓、全國銀行中第八位を堅持し、中部地方始め關東、關西に百二十一の支店を擁する大銀行となつた。

(一) 銀行

市内に本店を有する銀行は特殊銀行(愛知縣農工銀行)、普通銀行(東海銀行)、貯蓄銀行(日本貯蓄銀行)計三行と其の支店七十三行と他に本市外に本店を有する所謂支店銀行二十一とを合すれば總計九十七行に及ぶ。

(イ) 預金及貸出

名古屋銀行集會所組合銀行の昭和十六年末現在の預金總額は十三億二千五百七萬八千圓、貸出總額は六億九千九百八十二萬一千圓であるが、之を最近數年に比較すると預金の激增に比して貸出はいさゝか之に伴はぬ嫌ひがある。

	預金	貸出	貸出率
	千円	千円	
昭和十二年	五九四、一九五	三七五、九二五	六三・二
同 十三年	七一六、八二七	四四〇、四一九	六〇・一
同 十四年	九五一、五三七	五七九、一〇二	六二・八
同 十五年	一、一二六、三八〇	六四二、四四三	五六・四
同 十六年	一、三三五、〇七八	六九九、八二二	五二・八

(ロ) 外國爲替

本市に於ける外國爲替の取扱は横濱正金銀行が當地方の貿易上の發展に着目し、大正十年七月本市に支店を設置したのを濫觴とし、其の後他の銀行も之に倣つて爲替業務を開始するに至り、現在では十一行の銀行が外國爲替を取扱つてゐる。其の取扱高は左の通りである。

市内銀行外國爲替取扱高

	輸出爲替	輸入爲替	合計
昭和十三年	八〇、六二九千円	四一、三六〇千円	一二二、九八九千円
同 十四年	一二三、三七三	四六、五二五	一六〇、〇九八
同 十五年	一三四、一五四	四三、三四四	一七七、四八八
同 十六年	九六、七一七	七、四二〇	一〇四、一三七

(八) 手形交換高 手形交換高は累年激増の一途を辿り、本市の手形交換高は全國第四位を確保してゐる。然し手形交換高の増加に伴ひ不渡手形を増加してゐるが殊に昭和十五年の如き近年に比を見ない程の尨大な金額に上つた。之は主として昭和十五年の下半期に生じた特別の事情に依るものであつて、敢て本市にのみ現れた特異の現象といふべきものではなく、苟も七・七禁止令の影響を蒙つた都市には程度の差こそあれ同様の結果となつてゐるのである。

本市に於る手形交換高の増勢

	枚數	金額
昭和十三年	二、八六〇千枚	四、六二〇、三九一千円
同 十四年	三、三五	五、八二五、四八〇
同 十五年	三、一八〇	六、六九二、三三八
同 十六年	二、四九六	六、一九九、五三七

本市に於る不渡手形の變動

	枚數	金額
昭和十三年	二六枚	一二五千円
同 十四年	二四	六六
同 十五年	一三〇	二四五
同 十六年	八二	一五〇

(註) 名古屋手形交換所調査に據る。

(二) 信託

本市に本店を有する會社は中央信託會社一社のみにして、市外に本店を有する會社としては安田三和、三井、三菱、住友の外新しく第一信託が登場した。

(三) 保險

市内に本店を有する會社は福壽火災の一社があり、本市に支店乃至出張所を有する會社は極めて

多い。

(四) 無盡

庶民金融機關として無盡會社の地位は最近頓に高まつて來てゐるが、愛知縣には愛知、勸業、東海、寶の四會社がある。十七年二月末の給付契約は一億三千七十六萬一千餘圓に達し、十五年末に比較すると約二千三百萬圓の增加を示してゐる。

(五) 質屋

民營質屋の取扱高は不明であるが、凡そ三百萬圓程度と推定される。

尙本市には公益質屋五店あり、昭和十五年末の現在高は口數一萬二千三百三十二口、金額八萬三千九百三十四圓であり、同年中の入質二十一萬一千百三十三圓、出質二十萬七千十一圓、流質五百十八圓となつてゐる。

(六) 商工組合中央金庫支所

本市に商工組合中央金庫支所が開設されたのは昭和十一年十二月であり、其の後組合の增加に伴ひ此の施設の利用は日を逐ふて盛んとなつた。

尙同支所は從來興業銀行支店の委託經營であつたが、業務の伸張に對處する爲め近く獨立支所が開設されることに決つた。

(七) 信用組合

本市に於ける信用組合又は信用兼營組合は現在二十九を算し、貯金並に貸付は近年顯著な增勢を示してゐる。

(八) 國民更生金庫支所

國民更生金庫出張所は勸業銀行名古屋支店內に設置され、昭和十六年三月一日開店したが再編成の進展に伴ひ同金庫の事業が繁忙となるに對處する爲、十七年九月出張所を支所に昇格した。

(九) 庶民金庫名古屋支所

中小商工業者や勤勞者の金融機關として庶民から喜ばれてゐる庶民金庫名古屋支所は、昭和十三年夏誕生以來每年その利用者も增加し、市民の厚生に貢獻して來たが、昭和十六年度は前年比で二倍の增加率を示してゐる。

(十) 郵便貯金

昭和十五年度中に於ける郵便貯金の預入金額は一四〇、五七九、九九一圓、拂戻金額一〇〇、六三二、四六九圓で差引三九、九四七、五二二圓の預入超過となつた。而して年度末貯金殘高は二〇八、二三一、四四二圓に達し、この預入人員二、一五三、七〇二人を算し、一人當りの預入金額は九七圓に當つてゐる。

市内郵便貯金

	預入人員	年度末現在高
昭和十三年	一、五七二、七六五人	一三二、三七七千円
同 十四年	一、八七六、八五四	一六三、五八八
同 十五年	二、一五三、七〇二	二〇八、一三一

九、交通通信概況

本市の交通施設は既に數年前に飽和點に達してゐるにも拘らず、都市の膨脹の趨勢は愈々甚しく貨客共に激增の一途を辿る現狀にあり、さりとて資材不足の今日交通施設の整備は希望通り進捗せず、こゝに本市は六大都市中最大の交通難に直面し、關係當局では此の打開に日夜腐心してゐるのが今日の實狀である。昭和十五年十月二十三日に實施された名古屋地方交通量調査の結果に據れば全交通機關の乘車人員は一日九十萬人に達し、此の内八割は市内の分で事變前に比較し七割の增加に當る。

(一) 鐵道

本市は我國陸上交通の根幹たる東海道線の中樞に位し、又近畿と東海地方を結ぶ關西線及信州、裏日本に通ずる中央線の二線は共に本市を起點とし、名古屋港へは臨港線に依つて連絡する等鐵道運輸網の要衝に當つてゐる。最近注目すべき現象として、南部工業地帶の急速な發展に伴ひ熱田、大高兩驛間に笠寺驛が近き將來に出現する。又東北部工業地帶の驚異的躍進に鑑み大曾根驛が改修を施されることになつてゐる。

最近に於ける國鐵の貨物の輻輳は共の極に達してゐるが、左に其の狀況を掲げる。

本市の大幹線櫻通り

市内鐵道貨物發着噸數

昭和十二年	四、三六、〇六四	グラムトン
同 十三年	四、一七六、六〇四	
同 十四年	四、六九九、八三	
同 十五年	五、六一八、七八九	

(註) 堀木元名古屋鐵道局長の發表に據る。昭和十五年は十月以降推定。

(二) 市内電車及バス

本市の電車、バスは全部市營に統一されてゐるが、之は他の大都市には見られない特色である。然しラッシュ・アワーといはず殆ど一日中混雜するのも他の都市に類を見ない。

・左に東京、大阪、名古屋の三大都市に於ける市電の

雜沓を示す指標を擧げる。

市電一日一粁當り乘車人員

	名古屋	大阪	東京
昭和十一年	三、八六六人(一〇〇)	三、六二四人(一〇〇)	二、九五五人(一〇〇)
同 十二年	四、一六五(一二七)	三、八〇七(一〇四)	三、二二八(一〇八)
同 十三年	五、〇七六(一五五)	四、一六六(一二七)	三、五九五(一三〇)
同 十四年	六、〇〇四(一九〇)	五、〇七三(一三四)	三、九八〇(一四六)
同 十五年	六、六六五(二〇三)	五、六二四(一五八)	四、〇一八(一六四)

日支事變勃發と共に、當市に於ける軍需工場は非常に擴大され、それに伴ひ勤務從業員の數は著しく增加し、尙各方面に於て更に工場の擴張されつゝあるをみる。而して當市電車の乘客も之等從業員の增加、並に事變の影響のため、一般交通量の增加と相俟つて逐年增加の一途を辿り、昭和十五年度に於ては、事變前の昭和十一年度に比し、裕に倍加を示すに至つた。

尙市電、市バスの全貌は左表によつて明かである。

市電、市バスの概況

	營業線路粁數	運轉車輛數	運轉粁數	乘客人員
電車	八七、四二七粁	二、六三八臺	二、二四五、二六四粁	一八、三九〇、二二五人
バス	二三、八四〇	—	六五二、九五〇	三、三九六、三四五

（註）名古屋市電氣局調査に依る。運轉粁數、運轉車輛數、乘客人員は昭和十七年四月平均。

名古屋市電氣局では未曾有の交通難に對處し、常時乘客の訓練を行ふと共に應急策として新たに聯節電車の運轉により其の一助とし、恒久策としては都市を貫く地下鐵を計畫してゐる。

（三）郊外電車

郊外電車には名古屋鐵道、關西急行の兩社線がある。名古屋鐵道は東部線、西部線及び瀬戸線に分れ、東部線は岡崎、豐橋及び半田、常滑方面に走り、前者は更らに北上して三信鐵道と連絡、南下して渥美半島に至る。西部線は機業地帶たる尾西地方並に岐阜市に結び、瀬戸線は瀬戸市と本市とを連絡してゐる。關西急行は四日市、津を經て宇治山田並に大阪と結んでゐる。

（四）通信概況

豫て待望されてゐた中央電信局と中央郵便局が本市にも新設されるに至つた。

中央電信局は元の名古屋郵便局電信課が獨立昇格したもので、目下の處榮郵便局内に假事務所を置いてゐる。

中央郵便局は笹島郵便局を擴張增築の上之に充てられ現在名古屋郵便局に集中してゐる市内各局に發着する傳送便は全部此の局に集り時間的にも事務緩和の上にも大きな役割を持つてゐる。

飛躍的に膨脹する市内の通信に對應して右の兩局の獨立は中央電話局と共に通信三機關の鼎立を招來し、大都市にふさはしい形態を採ることになる。

左に郵便局關係の郵便、電報が如何に增大してゐるかを數字によつて示すことにする。

市内郵便局取扱郵便物の現況

	内國特殊郵便 引受	内國特殊郵便 配達	外國通常郵便 引受	外國通常郵便 配達	内外小包郵便 引受	内外小包郵便 配達
昭和十二年	二、一二三、八一八通	一、五九、九六三通	三四、二四一通	一六、六七五通	二、五九、八六八個	一、三二四、四八八個

市内郵便局取扱電報發着狀況

	內國電報			外國電報		
	發信	着信		發信	着信	
同　十三年	二、二八二、四六九	一、七〇九、三五六	二、六七二、八六三	一、四一八、六七一		
同　十四年	二、五六三、三四九	一、九四二、八七一	二、九四一、〇一〇	一、七一六、四六七		
同　十五年	二、八六〇、〇五〇	二、二七六、八六四	二、八三七、三〇七	一、七二五、六九三		
昭和十二年	一、六七三、五四九通	一、五二二、八九二通	二九、〇二六通	四六、一七八通		
同　十三年	一、六一九、九九一	一、五〇四、四九八	二八、五九二	二七、一六三		
同　十四年	一、六九二、二三五	一、六一二、五〇二	二八、四〇一	二六、八四〇		
同　十五年	一、七九〇、九八五	一、六九、八〇四	二六、八六二	二六、八二二		

（註）名古屋遞信局の調査に據る。

次に電話は二、三年以前迄は都市の發展と正比例して加入者數が增加したが、今日では電話線の關係で增勢が鈍化するの止むなき情勢にある。昭和十六年六月現在の名古屋中央電話局管內の加入者數は三萬三千八百七十を算する。

最後に名古屋中央電話局管內の國際電話は最初先づ昭和九年比律賓との間に開通し、其の後蘭領印度、米國、英國、獨逸と相次いで開通され、現在では殆ど世界各國に通信網が擴充されてゐる。

十、勞働概況

本市の重工業が急速に擴張されるに及んで本市並に近郊に依存してゐた勞働力の供給地は、今や勞力の急激な需要增大に應じ切れず、近くは長野、岐阜、靜岡、三重の諸縣より遠くは福井、富山、石川の諸縣に至る迄、本市大工場の勞務供給地域は擴大されてゐる現狀である。

（一）勞務需給狀況

名古屋國民職業指導所管內の職業指導所に於ける勞力の需給關係は、左表の如し。

名古屋國民職業指導所求人、求職、就職者數

	求人數	求職者數	就職者數
農業	一四人	一四人	七人
水産業	一	二	一
商業	六、九四四	四、三一八	二、三二六
交通業	三、五二七	三、三八九	二、〇二六
公務自由業	五、九二二	四、二四五	一、九三九
家事	三、三四五	一、六三二	七四七
合計	一九、七四三	一三、五九九	六、九三六

（註）名古屋國民職業指導所調査に據る。昭和十六年中の事實。

（二）賃銀及生計費

本市に於ける賃銀の水準は從來東京、大阪等に比較し稍々低いと一般に稱されてゐたが、最近では外來資本による大工場が東京、大阪と殆ど差違のない賃銀を支拂ふ爲、地元の工場も勢ひ對抗上從前の賃銀を右と同程度迄引上げることになり、これに加へて生活費の昂騰と物價賃銀の公定のため東西との賃銀の懸隔は漸次狹められつゝある。

三大都市賃銀騰貴率比較

	東京	大阪	名古屋
昭和十二年七月	一〇〇	一〇〇	一〇〇
同 十三年七月	一〇六	一〇四	一一〇
同 十四年七月	一一三	一一四	一一三
同 十五年七月	一一三	一一六	一一四
同 十六年七月	一一四	一一九	一一九

（註）商工省の賃銀統計月報に據る。昭和九年乃至翌十年三月平均基準。

次に生計費は一般に大都市として頗る低いのが本市の特色であつたが、事變後奔騰の傾向を續け東京、大阪兩都市に比較して低いとは云はれなくなつた。

三大都市生計費指數比較

	東京	大阪	名古屋
昭和十二年七月	一〇〇	一〇〇	一〇〇
			五五

同 十三年七月	一二三	一二一	一二一	五六
同 十四年七月	一二〇	一二九	一二九	
同 十五年七月	一五〇	一五二	一四六	
同 十六年七月	一四七	一四四	一四六	
同 十七年七月	一五三	一五三	一四九	

(註) 内閣統計局の生計費指數に據る。昭和十二年七月基準。

十一、消費事情

(一) 遊興

遊興に關する事情を税額から間接に窺へば次の様である。

遊興飲食税の増勢

昭和十四年十二月	二三二千円	三六八
同 十五年十二月		八四六
同 十六年十二月		

(二) 遊興飲食關係業者數三大都市比較 (昭和十四年末)

	料理屋	飲食店	カフエー及バー
東京市	九八六軒	二八、〇五一軒	六、八二七軒
大阪市	一、七八八	八、三〇五	三、八八二
名古屋市	一、〇〇三	四、〇八二	六六三

(註) 都市年鑑に據る。

(三) 煙草

煙草の販賣高は左表の如く人數の増加以上に増加率が著しいが、かゝる現象もインフレ景氣の一様相である。

昭和十三年七月 七四七、七九一円

同十四年七月		八三一、四二七
同十五年七月		一、〇二六、二二四
同十六年七月		一、〇八七、一八一
同十七年七月		一、五三五、三八二

(四) 六大都市煙草販賣高比較

(昭和十五年度)

	一人當り年額
東京市	一三、一円
大阪市	一四、三
名古屋市	九、六
京都市	一〇、五
横濱市	一一、〇
神戸市	一四、二

(註) 國勢グラフに據る。

十三、會社

本市に本店を有する會社は昭和十五年末現在で三千百二十二社を數へ、前年より二一社の增加となつてゐる。

最近二ケ年の會社新設狀況は左表の如く組織別に見ると、昭和十五年に於ては株式會社が社數に於いても、資本金に於いても第一位を占めてゐるが昭和十六年には企業合同等により有限會社の設立せらるゝもの多く、社數に於て有限會社が第一位となつてゐる。次に之を業態別に見ると昭和十六年は工業が首位を占め、昭和十五年中の商業に取つて代つてゐる。

本市に於ける新設會社並資本金綱

	昭和十六年	昭和十五年
社數	鑛業 五	社數 六
資本金	二三四千円	八〇〇千円

工業	二四七	一四五	一〇、四〇七
紡織工業	三五	一四	八一七
金屬工業	一一	一〇	七八四
機械器具工業	一五	四九	四、三七四
化學工業	一七	一二	八九八
窯業	九	五	三七九
製材及木製品業	八	一五	一、二一六
印刷及製本業	二	三	一八〇
食料品工業	一七	一五	七七二
其他の工業	一三	一三	九八七
商業	三一	一六〇	一九、七六四
物品販賣業	一六三	一四一	一七、六二九
證券及土地業	二	四	四六一
金融及保險業	四	一	一
運輸及倉庫業	一六	一三	一、六四九
其他の商業	一六	一一	二五
合計	四六三	三一	三〇、九七一

（註）本所調査。

新設會社總計

	社數	資本金 千円
昭和十四年	三七〇社	四八、一七一
同 十五年	三一	三〇、九七一
同 十六年	四六三	四七、八八一

組織別新設會社

	社數	資本金 千円
昭和十四年		
株式會社	三一社	四〇、九九〇
合名會社	四七	一、七二四
合資會社	二一	三、三二七
昭和十五年		
株式會社	二一〇	二三、四八一

合名會社	一八	五七	
合資會社	八二	二、〇三九	
有限會社	九一	五、八五四	
昭和十六年			
株式會社	一三三	二、六五八	
合名會社	二五	八四七	
合資會社	八〇	一、八〇九	
有限會社	二三五	二五、五六七	

新設會社比較表

	社數	資本金
昭和十五年		
紡織工業	一四社	八一七千円
金屬工業	一〇	七八四
機械器具工業	四	四、三七四
化學工業	三	八九八
昭和十六年		
紡織工業	三五社	五、一二三千円
金屬工業	二	五七二
機械器具工業	五六	一〇、一三〇
化學工業	一七	一、三七六

十三、組合

昭和十六年五月末現在に於ける本市の組合數は左表の如くであつて、此の中工業組合及び商業組合は毎年驚異的な激增を續けてゐるが、之に反し其の他の組合は現狀維持乃至減退の傾向がある。

市內組合數

工業組合及同聯合會	一九七
工業小組合	七

商業組合及同聯合會　一九
商業小組合　二
貿易組合及同聯合會　二三
同業組合及同聯合會　三
準則組合　五
協同組合　三三
申合組合　一七八
統制聯盟　一〇

十四、商工業指導助成機關

本市の產業經濟は以上の如く飛躍的發展を遂げつゝあり、之は固より當業者の不斷の研究と不屈の努力に負ふ所多大であるが、一面に於いて本市の實業教育の整備に加ふるに商工業指導機關の完備が直接間接之に與つて力あることは言ふまでもない。

(一) 實業教育の機關

名古屋帝國大學は昭和十四年四月創立され從來よりあつた醫學部の外、昭和十五年より理、工學部も開講され、專門學校としては古くより名古屋高等工業（土木、機械、建築、紡織、色染、電氣、航空の各科）、名古屋高等商業（本科、商工經營科の二科）の兩校があり、更に中等程度のものには縣立六校、市立十八校の外私立のもの多數存在する。

右の內特色のある中等學校に次の二つがある。

名古屋市立航空工業學校は本邦に於ける航空機工業の中心地たる本市の特殊事情に鑑みて昭和十四年三月新設されたもので、入學資格は國民學校高等科卒業、修業年限三ヶ年の甲種工業學校であつて、設計、機關、機體の三科に分れ、各科百五十名の收容人員がある。

更に愛知縣では當地方の貿易振興を圖る爲め昭和十七年度より新たに縣立貿易商業學校を開校せられてゐる。

(二) 商工業指導施設

(1) 愛知縣商工館　愛知縣商工館は企劃部、貿易部、指導部の三部制を布き、左の事業を行ふ

一、內外商取引の斡旋並に貿易振興上必要なる諸施設
二、中小商工業者の經營改善に關する指導
三、產業經濟に關する調査研究
四、代表品及發明奬勵に關する事項
五、內外優良商品其の他の參考資料の蒐集、展示
六、內外商工業に關する諸情報諸統計の編纂及頒布
七、其他商工業改善發達に必要なる諸施設

(ロ) 愛知縣工業試驗場 愛知縣工業試驗場は今回西區平手町に移轉した。元來化學指導に主力を注いでゐるが、最近では指導範圍を擴張し、輸出工藝品の高級化を企圖し、工藝科を新設、木工金屬、陶磁器、竹細工、染漆等の指導に當ることになつた。

(ハ) 名古屋市貿易指導所 本市の外國貿易をして直接貿易に轉換せしめる目的を以て昭和十一年名古屋市が貿易斡旋所の名稱で開所したが、昭和十五年名稱を貿易指導所に變更した。主なる事業は大要左の通りである。

一、海外商取引の紹介斡旋
二、貿易實務員の助成
三、商品見本の海外送付並に試作奬勵
四、海外市場に於ける見本の蒐集、展示

(ニ) 名古屋市工業指導所 名古屋市が昭和十二年七月開所した指導所である。組織は織染、機械、化學の三部に分れ、主として中小工業者を相手に技術の指導、援助に當つてゐる。

(三) 機械工の養成施設

(イ) 愛知機械技術員養成所 之は商工省直轄の國立機械工の養成所で昭和十三年八月創立され旋盤、仕上、フライス盤、鑄物、木型、製圖、鎔接、鑄鋼の各科に分け、精神教育に重點を置きつゝ技術の指導を行ふ。

(ロ) 愛知縣立幹部機械工養成所 愛知縣では熟練工の養成を行ふ爲昭和十五年一月之を創立した。旋盤、仕上組立、フライス、研磨盤、鑄造、鍛工、熱處理の七科六十名づゝを六ヶ月收容の上幹部機械工としての技術を訓育する。

（ハ）名古屋市機械工訓育所　名古屋市が商工省の半額補助の下に昭和十三年四月名古屋市工業指導所内に設置した施設であつて修業期間一年、收容人員は七十五名である。

（ニ）鶴舞女子機械工補導所　名古屋國民職業指導所が東京に次ぎ第二の女子機械工養成所を計畫、昭和十六年八月創立した。之は定員三十名、精密機械工の養成を行ふ筈である。

（ホ）城東機械工補導所　名古屋國民職業指導所の計畫によるもので、旋盤、仕上、フライス、熔接の四科がある。晝間部三ヶ月、夜間部四ヶ月收容、機械工としての指導を行ふ。

十四、商工會議所の事業

當名古屋商工會議所は名古屋市の中央中區大池町にあり、明治二十四年設立を見てより今日迄實に五十數年の沿革を持つてゐる。

議員定數五十名、顧問十名、議員選擧有權者二萬三千餘名、一ヶ年の經費六十萬圓を突破する。議員の部は庶務、會計、商業、貿易、工業、理財、交通の七部より成り、各部の部長、副部長が常議員を構成し、之が會頭、副會頭と共に役員を形造つてゐる。

事務局は理事以下約百名の職員が左の如き職制によつて事務を執る。

理事、副理事の下に總務、經理、業務の三部と外に調査室、圖書館、商工相談所がある。總務部は秘書課及庶務課より成り、經理部は會計課、賦金課の二課、業務部は商業、工業、貿易、理財、交通の五課を夫々統轄する。尙之とは別に理事直屬の企畫委員會があり、業務部各課、調査室の幹部を以て構成されてゐる。

本所の事業は大要次の如くである。

（一）商工業の改善並に指導斡旋に關する事業

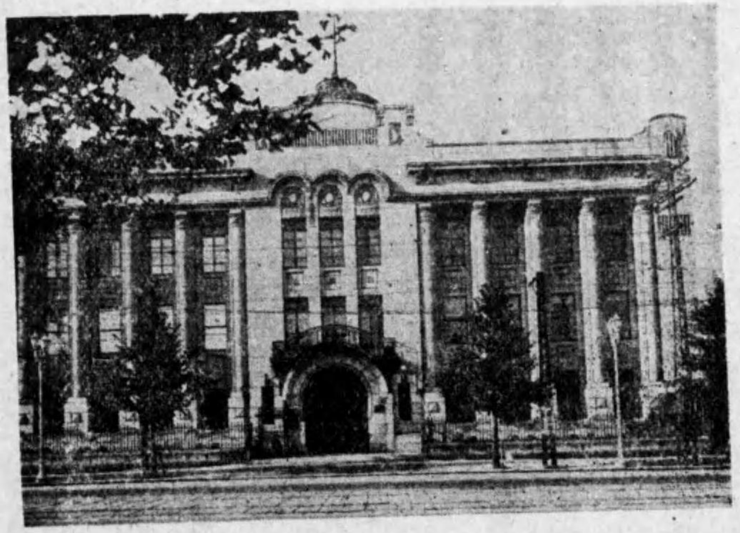
（イ）商業に關する事業　常時商業組合の設立に關し斡旋を行ひ、又資格者證明を爲し、商業の紛議の調停、組合間の調整仲裁を爲し、更に統制に伴ふ物資配給の指導に關し市内の商業組合に對し便宜を計り、諸法令の趣旨の徹底普及を圖る爲に講演會、座談會等を隨時開催する。

年中行事としては本所が中心となり、各種の珠算競技大會、商業特技試驗（珠算科、簿記科、習字科、タイプライター科）の外二十數年前より商業實務員學力檢定試驗を實施し、商業教育の領域

に迄進出してゐる。

尙各種商業關係の講習會或は展覽會、特に商店經營に關する講演會、其他旅商等の場合の商品見本の證明書、營業上の檢査鑑定並に營業證明書、紹介狀の發行、又最近では商店主及び商店員の福利厚生の爲商店道場を毎年一回開催する。最後に商業者の企業合同、商業關係組合の統合等商業再編成の問題に立ち入り、更に軍需勞務者動員の緊急性に鑑み商業者の轉業對策に關し積極的努力を拂つてゐる。

(ロ) 工業に關する事業 工業實務員學力檢定試驗及び工業特技試驗は毎年定期的に繰返してゐるが、最近では機械工の技能短期養成を目的とし



名古屋商工會議所

て機械製圖講習會、現場技術者の登龍門とも稱すべき機械技術者檢定準備講習會、或は機械設計及工作法講習會を一年數回開催する。更らに最近經濟統制遂行上極めて重要となつてきた製造原價計算の普及にも力を入れ、屢々其の講習會を開催してゐる。

又軍需勞務者の誘致に關しては職業指導所、愛知縣職業協會、名古屋職業補導協會等と協力して中部ブロック内各地で地元の有力者を招き懇談會を開催する事例が多い。

更に工業組合の設立に就いては商業組合の設立の場合と同樣に詳細に亘り指導斡旋を行ふ。殊に最近制定された工業小組合或は有限會社の設立にも關係當局と提携の上種々の斡旋をなすのも主要な事業の一である。

(ハ) 貿易に關する事業 インボイス證明、原産地證明、飜譯、外國文々書の起草及淨書、海外商取引の仲介斡旋、海外商工會議所又は經濟團體との聯絡等を日常の事務としてゐる外、關係當局官吏を招いて隨時懇談會を開催、又海外見本市、博覽會への參加斡旋も頻繁に行ふ。

更に東京、大阪、神戸、横濱の各商工會議所と共に歐洲戰禍貨物處理荷主會を結成してゐる。最後に東亞共榮圏内の外國語が貿易業者に特に緊要となつた現狀に鑑み、スペイン語、マレー語、オ

ランダ語等の語學の專門家を招き屢々講習會を開催してゐる。

(二) 理財に關する事業 近來統制の頻々たる改革が行はれるので、本所としても其の都度稅制案に對する希望意見を當局に具申し、又施行となつた稅制の普及徹底を圖る爲講演會を開催し、市內商工業者一般に呼びかける外、本會議所時報を利用し趣旨並に手續等の詳細な說明を行ふ。

又金融關係の諸法令が公布される度に其の施行細則に關する種々の手續の說明、或は疑義の解釋等に力を注ぎ、其の運用に就いては國策の立場から陳情を行ふ場合も多い。

(ホ) 交通に關する事業 市內交通施設の改善或は內外の鐵道及船舶運輸並に運賃の改正、又は道路網の整備、更に進んで通信機關の完成等に關し、隨時問題を採り上げ、之が解決促進に側面的援助を行ひ、商工業界の利便を計つてゐる。

(二) 商工業改善並指導の爲の施設

(イ) 商工相談所 市內商工業者の個人的相談に應ずる目的の下に昭和十二年一月本所の一室に開設された。相談に與る項目としては工業技術、商工圖案、商店經營、各種法規、代用品、稅務等が擧げられる。

商工相談所

尙名古屋財務局內にあつた名古屋稅務相談所が昭和十六年三月本所內に移轉したことは特記すべきであらう。

更に本所には全國各地より面談或は文書によつて商取引の照會があるが、之に對し迅速並的確に解決の指針を與へるのも事業の一つである。

又商工業者の參考資料として全國商店、工場より蒐集した一萬六千の型錄がこゝに整備され、優良代用品の見本も陳列されてゐる。

(ロ) 圖書館 內外商取引の手引となる各地の商工人名錄の類を始め、主要都市の職業別電話帖電信略號簿、考課狀、興信錄、業界新聞雜誌、或は法規、辭典、一般經濟圖書等約二萬冊を蒐集し

一般に公開してゐる。

更に一般研究者並に工場勞働者の便に供する爲、基礎的工業技術を解說した工業圖書の蒐集に着手、現在約二千五百冊を備付け閲覽に供してゐるが尙每年豫算を計上し、一層の充實を期してゐる。次に特筆すべきことゝしては時局の要請に應へんが爲め、東亞文庫設置に着手したことである。右は四ヶ年事業として五千圓を計上し、目下着々關係圖書を蒐集中であり、最近東亞文庫目錄を刊行した。

（八）特許公報閲覽室　工業所有權の指導奬勵の爲帝國、滿洲國並に中華民國の特許關係公報を蒐集して、番別順、類種別に整理し、別に愛知、三重、靜岡、岐阜の四縣別にも分類すると共に愛知縣下に於ける權利の人別カードも整備してゐる。

尙附言すべき事は公報複寫裝置を備へて複字に應じ、閲覽者の便宜を計つてゐる。

（ニ）商品陳列室　輸出向の當地方產物を海外に宣傳し、又輸出品製造業者の參考資料とする目的を以て商品陳列所が設けられてゐるが、最近では新興優良代用品も多數蒐集の上一般の觀覽に供してゐる。

（ホ）集會場　本所の建築物は事務所に充てられてゐる部分は全體から見れば極めて僅で、其他の大部分は集會場として講演會、展覽會、懇親會等諸種の催物を始め會社、組合等の會合の利用に有料で貸與してゐる。

（三）其他の事業

（イ）產業經濟に關する調査及企畫

名古屋地方の產業經濟に就いては商業工業、貿易、金融、財政、交通、勞務等各部門に亘り夫々專門の調査員を置き統制の强化と進展に伴ふ業界の變動の狀況或は將來の動向に關し絕えず注意を拂ひ、調査の結果によつては當局に對する陳情の資料となす。又當局の諸問に基き諸種の調査も行ひ、國策的見地から企畫をなす。

（ロ）各種刊行物の發行　右の調査研究の結果、公表し得るものに就いては小冊子の形で隨時印

商品陳列室

刷物となし、廣く關係方面に頒布する。

定期刊行物としては昭和十四年四月創刊した『名古屋會議所時報』が最も新しく、之は市内一般商工業者と本所との連絡維持、財界情勢の報道、國策の周知徹底等を目的として毎月二回定期に發行する新聞紙であつて、配布先は本所有權者二萬四千、本市内の官廳、學校、各種組合八百五十、市外三百六十、合計二萬五千餘部の發行部數を有する。

更に古くより産業經濟に關する基礎資料として諸種の統計を月報乃至年報として刊行する。本所の定期及不定期刊行物は左の如し。

◇定期刊行物

名古屋商工會議所々報（年四回）
名古屋會議所時報（月二回）
名古屋經濟統計月報
名古屋商工會議所統計年報
物價及勞銀（年一回）

◇其他の刊行物

名古屋商工案内
時局經濟調査及研究
名古屋工場要覽
名古屋の産業
名古屋港貿易發展三十年史
Nagoya Industry
Nagoya Trade Directory
Nagoya Facts, Figures & Features

（八）觀光の斡旋　海外の來賓を接待し市内名所の視察の斡旋を行ひ、又一般の觀光希望者に對し、市内の名所を紹介する等の事業を主としてゐるが、其他常時觀光關係の資料を蒐集整理し何時でも相談に應じられるやうに準備してゐる。尙各地で開催される博覽會及土産品展覽會に對する本市の出品參加の仲介援助も一つの事業である。

（二）文化施設の誘致　本所は市内商工業者の一般的利害を代表し、關係當局に其の意見を具申陳情するのが本來の使命であるが、時には商工業界に限らず名古屋市全體の立場に立つて市勢の伸張に意を用ひ、本市を三大都市として遜色のない地位に迄引上げる事に努力してゐる。

（四）本所に事務所を置く附屬團體

本所には他の商工會議所に比を見ない程數多の附屬團體を傘下に擁してゐる。本所が市内商工業者と緊密な關連を保持してゐる理由の一つは此の附屬團體の賜とも云へる。

附屬團體の名稱は左の通りである。

一　水　會

名古屋工業研究會
名古屋航空談話會
名古屋實業組合聯合會
名古屋同業組合協會
名古屋商店協會
名古屋海運協會
名古屋專門店協會
日本國際協會名古屋支部
名古屋觀光協會
名古屋商工協會
財團法人　帝國發明協會愛知支部
名古屋商店街聯盟

名古屋貿易協會
財團法人　南洋協會東海支部
愛知縣商業報國會名古屋支部
名古屋土地協會
名古屋經濟讀書協會
名古屋青年實業團
土曜會
名古屋廣告協會
愛知縣所得調査委員聯合會
名古屋商工懇談會
名古屋地方勤勞協議會
名古屋實業懇談會
東海觀光地聯合會

大日本國防衞生協會愛知縣支部
名古屋國際航空協會
名古屋外交懇談會
名古屋財務懇談會
名古屋見本市協會
日本原價計算協會東海支部
名古屋製品卸業協會
名古屋都市美協會
財團法人　機械化國防協會支部
國防經濟研究會

東亞經濟懇談會中部地方委員會
國策研究會
名古屋產業科學研究會
名古屋日滿通商協會
財團法人科學動員協會名古屋支部
日本貿易振興協會名古屋地方部
全國商店街聯合會名古屋支部
恩光會
名古屋工場助成會

附錄

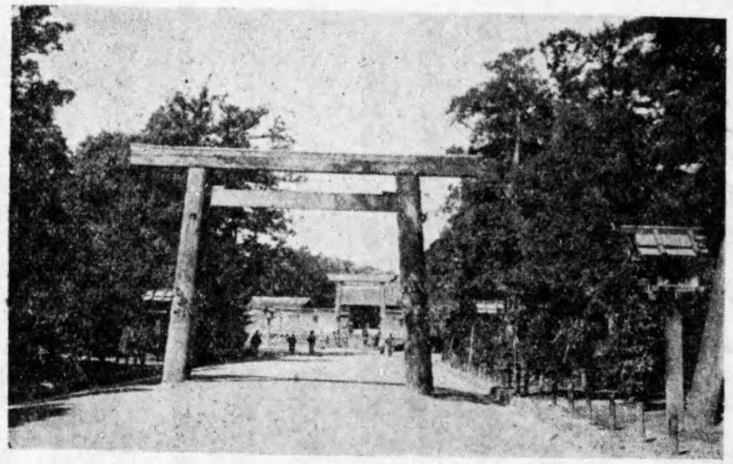
市內名勝

名古屋市の沿革

本市の地名が何時の時代からの呼稱であるかは詳かでない。即ち那古屋、名護屋、名古屋の文字は相當古くから用ひられ、又古圖に浪越の文字も散見するが、その何れも眞なりとは云ひ難い。併し乍ら延喜民部式に護國鄕里の名稱は悉く二字を用ひ嘉名を取る制度の存在したことから三字名を用ふるに至つたのはかなり後世のことゝ察せられる。那古屋の名を始めて史上に現れたのは貞治三年（五百數十年前）のことに屬する。後大永二年駿河の國主今川氏が信濃、遠江、三河の三國を始ど隷屬せしめ那古屋に壘を築造したが、享錄五年織田信秀之を奪ひ其の子信長の居城としたが軈て廢城となり、慶長十五年德川家康が其の子義直のため再び築城の工を起してより、人煙稀にして荒涼の地那古屋は急轉直下の勢を以て忽ち新名古屋繁榮の礎を築き二代目光友の頃には人口五萬五千を算し、更に萬治二年の大火災の燒失家屋九千幾百戸の記錄に依ても、當時の市井殷賑の狀は想像に難くない。而して王政維新となり百制の改革に遭ふや名古屋藩を置き、次いで明治四年廢藩置縣の制定により名古屋縣となり、更に幾許もなく愛知縣と改稱された。

明治十一年郡區町村編成法發布せられ名古屋區となり、同二十二年市町村制實施に依り名古屋市となり、茲に完全なる市自治行政を布き逐年進歩の跡著しく、戸口の漸增は地區の擴張を促し、自然接續町村併合の機運に際會し爾來隣接町村の合併數次に及び、斯くて地區の擴張、戸口の增加に伴ひ市行政の圓滑を期するため同四十年四月市内を東、西、中、南の四區に分つたが其の後大正十年隣接十六町村を編入し、昭和に至るや前後三回に亘り公有水面埋立地の編入行はれ、更に十二年三月庄内、下之一色、萩野の三町村を併合し市域は益々擴大し戸數は增加したゝめ、同年十月一日より新たに千種、中村、中川、昭和、熱田、港の六區を設け十區制を實施するに至つた。昭和十四年十月一

名古屋城



熱田神宮

日は宛も市制施行五十周年にあたり市役所で盛大な記念式典を擧行した。

市内名勝舊蹟

現在市内には名古屋驛構内、朝日ビル、松坂屋、三星等に鐵道案内所、東亞旅行社出張所等がある外滿鐵の鮮滿支案内所も開設せられたが、尙市内の觀光に外來客の好評を博してゐるものに名古屋驛構内の名古屋市觀光案内所及當會議所内の名古屋觀光協會があり、夫々來遊客の市内觀光日程の相談に與り多大の便宜を與へて居る。

(一) 神社佛閣

◆熱田神宮

官幣大社で伊勢神宮に次ぎ我國に於ける最も由緒深い大宮であり、御祭神は三種の神器の一である草薙劍で昭和七年假殿遷座の御儀が行はれ、同十一年一月一日遷御の大儀が行はれた。熱田神宮奉贊會は最近東京に支部を設け、現在御本殿造營を始め神域の擴張を實施しつゝある。此の宮は畏くも皇族殿下の御參拜を始め奉り貴紳顯官の參拜するところであり、又本宮參拜の外人は何れも御神威に打たれるとゝもに日本精神の眞髓に觸れ得たと述懷してゐる。

◆護國神社

師團廓内に存し支那事變を始め西南、日清、日露戰役其の他戰爭、事變に一意報國戰死した愛知縣關係の多數將兵の英靈を合祀し、例祭は四月、九月の春秋二季に行はれ、又毎年四月臨時大祭が執行される。

◆東照宮

縣社東照宮は德川義直の創建にかゝり、祭神は家康日吉の大神日光權現で、俗に權現樣と稱し例祭は四月十七日であるが、櫻の好季節で名古屋祭として盛大に執行せられ名古屋名物の一である。

◆那古野神社

縣社であり東照宮に隣す。昔天王社と稱したが明治三十二年那古野神社と改稱され、素盞嗚尊、奇稻田姫命、兵主神及八柱神を祀る。例祭は七月十五、六日の兩日である。

◆東本願寺別院

眞宗大谷派本願寺の別院であり、境内櫻樹多く一如上人手植の老櫻もあり、市内櫻の一名所であり、又春秋の彼岸には市内外の老幼善男善女の參詣多く、數知れぬ見世物、露店の羅列し雜踏を極めるのは一偉觀である。

◆覺王山日泰寺

本邦佛教各宗派の共同所管に屬し、本尊は黃金の釋迦牟尼佛坐像で、泰國より佛舍利と同時に贈られたもので、即ち一千年前の鑄造にかゝる純泰國式の佛像である。同寺の後方一帶に佛堂多く毎月二十一日の弘法大師命日には善男善女の參詣するものが多い。

◆大須觀音

眞言宗智山派の準別格本山で寺號を北野山寶生院眞福寺とし、本尊は木造觀世音菩薩立像（空海作と稱す）で寺寶多く諸種の珍籍を藏してゐる。

◈八事興正寺

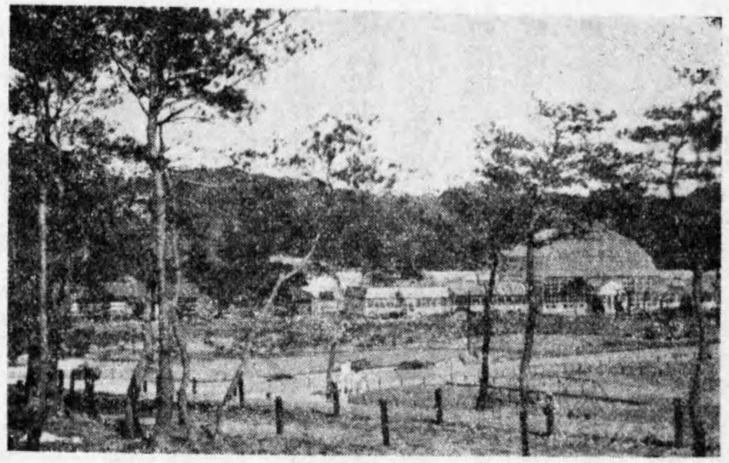
東西二山に分れ東山を遍照院、西山を普門院と云ひ高野山金剛寺の末刹に當り、眞言宗の準別格本山である、東西兩山ともに阿彌陀如來を本尊として安置し、境内には國寶五重の塔が聳えてゐる。

附近には秀桑園梅園、妙見堂、般若堂、普聞山、御野立所跡、天白溪、昭和花壇、各種の運動競技場が存する等本市東南部の景勝地であり、高級住宅、別莊地帶でもある。

(二) 公　園

現在市内には鶴舞公園、東山公園を始め中村、道德志賀、萩山公園等大小三十四ヶ所、併せて面積五十七萬坪の公園がある。

鶴舞公園　(綠樹の蔭は公會堂)



東山公園(植物園)

◈鶴舞公園

近世佛蘭西風の自然廻遊式公園で總面積七萬七千坪其の施設の完備せると地の利を占めることにより市の中央公園として四季を通じ最もよく利用せられて居る尙園内には市立圖書館、公會堂、猿面茶屋、松月齋、普選壇、市民運動場があり、附近に名古屋帝國大學醫學部、名古屋高等工業學校、愛知縣工業學校、中京商業等がある。

◈東山公園

本市東郊にあり、敷地面積二十四萬五千坪、動物園植物園を併置し昭和十年四月開園せられ、市民行樂の地として日曜祭日は勿論シーズンには動、植物園の觀覽者を始め公園を圍繞する連山丘陵は市内に比類なき

ハイキング地帶を成しハイカーが押掛け、又園内にドライヴウエーもあり、此處も彼處も人、人、人の盛觀を極める。

植物園は施設費二十四萬圓、動物園は六十萬圓を要した。植物園は東山植物園と稱し多種類の內外珍樹珍草を擁する大溫室と二十三區に分たれた植物主要區分園とから成つてゐる。

動物園は敷地一六六、三二〇平方米、其の設計は近代的動物園として最も嶄新な理想的形式を採り、建築物五十七棟を超へ、收容動物は三百三十三種の多數に上る。動物の種類の內譯を擧げれば爬蟲類十三、兩棲類三、魚類百九十八、鳥類八十四、哺乳類三十五となる。

特に最も誇りとする點は猛獸の無柵式放養場であつて、之は他の動物園の如く鐵檻を設けず特殊の構造によつて猛獸の進出を防ぐやうに設計されてゐる。就中獅子放養場、白熊氷山は白眉として喧傳される。尙注目すべき主要建築物にはペンギン島、猿ケ島、鷲類放養場、フライング・ゲージ、爬蟲類河馬館、高等猿類館、象館が擧げられる。

◈中村公園

尾張出身の一代の英雄豐臣秀吉誕生地を記念する爲豐國神社を中心に設立せられ、大正十二年愛知縣より本市に移管せられ、現在は面積二萬六千坪、將來は三萬三千坪に擴張する計劃になつて居る。地形は平坦で神苑、運動場、花壇に分れ、豐國神社記念館を繞つて瓢簞池、蓮池等がある。豐公誕生地は豐國神社東側にあり、太閤屋敷又は木下屋敷と云ふ。同社の東方に太閤菩提寺常泉寺があり、堂前に豐公產湯井と稱するものあり、公の銅像も建てられて居る。又公園に隣接する妙行寺は秀吉の忠順無比の臣加藤淸正の誕生地として知られて居る、

(三) 名古屋城、德川園、德川美術館

◈名古屋城

慶長十五年勇將の誇も高く朝鮮に於ける虎狩で名高い加藤淸正の築造にかゝり、同十七年正月城廓竣工す。天守閣は淸正一手を以て造營したもので五層より成り高さ二十四間二尺餘、閣上に一對の金鯱が聳立して居ることは餘りにも有名である。

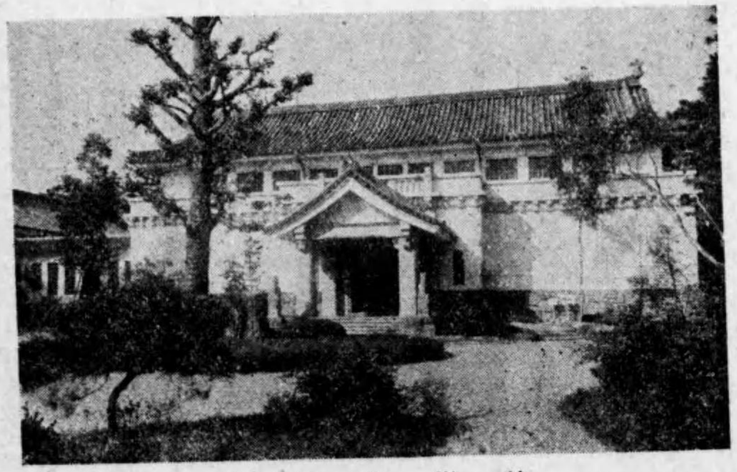
名古屋城の御殿は、玄關、表書院、對面所、上洛殿、黑木書院、上御膳所、梅の間等に分たれ、桃山時代及江戸時代初期の最も優美華麗な書院造である。就中上洛殿は將軍家光上洛の際新造せられたもので、畏くも明治天皇、大正天皇、今上天皇の御座所に充てられた御殿で明治二十六年本

丸の區劃だけ離宮とせられたが、昭和五年離宮を廢止せられ名古屋市へ御下賜に相成つた。寔に畏き極み乍ら昭和十二年、皇太后陛下には關西行啓の御途次名古屋城に御假泊遊ばされたことは本市並市民の恐懼感激するところである。

御殿、天守閣、各櫓、各門等の建物は御殿内の古美術品と共に國寶であり、區域一帶は史蹟に指定され、古木樾は天然記念物である。

尙廓内に名古屋中央放送局もあり、廓外には名古屋市廳舍、愛知縣廳舍隣接、又附近には中部日本の總元締名古屋遞信局の白堊の廳舍も偉容を誇り、宛かも官衙街の感がある。

◈ 德 川 園



德 川 美 術 館

舊尾張藩主德川家の邸宅で、昭和六年當主義親侯より本市に寄附せられたもので、總面積八千六百坪、庭園は閑雅幽邃、建物は風雅氣品に富んでゐる。

◈ 德 川 美 術 館

敷地二千七百餘坪、德川邸の一部を成し、館は城砦建築を加味した近世式建築であり、藩祖以來傳來の什寶美術品又古書籍を保存常時觀覽に供して居る。

(四) 名古屋港、名古屋國際飛行場

◈ 名 古 屋 港

本市の西南端伊勢灣に位し、中部日本に於ける海の玄關である。明治二十九年第一期工事着手以來既に四十年の日子を經過し、現在施行中の第四期追加工事に引續き更に第五期擴張工事も實施中であり、今日既に一萬數千噸の大汽船が横附になる中央埠頭を有する近代的港である。

◈ 名古屋國際飛行場

昭和九年六月名古屋國際航空協會の設立になり、名古屋港十號地に所要の施設をなし、同年十月

より日本空輸會社の旅客機により旅客及郵便物の定期航空輸送の端を開いた。現在飛行場の諸設備を整備するため、經費を遞信局、愛知縣及地元の三者で分擔し、既に着工してゐる。

(五) 商店街・盛り場

◆廣小路通

此處には日本銀行を始め東西の一流會社、銀行等の支店、出張所櫛比し、附近に株式取引所もあり、又百貨店、商店、食堂、喫茶店、映畫館等も櫛比し、商店街、盛り場でもある。

◆御幸本町・鐵砲町・末廣町

其の何れも歴史は古く德川時代に遡り、當時より現在迄卸賣商店街を成し、各商店何れも古きを誇り呉服、太物、雜貨其他萬般の商品を取扱ひ、最近は道路を擴張し、其際各商店新改築をなし、面目を一新し、歩道には鈴蘭燈も規則正しく林立、晝は仕入商品の積卸、販賣商品の積送に貨物自動車、自轉車續き雜踏を極めるが、夜は架空電線のない此の商店街は轉じて爽快な散歩道となる。

◆大須・萬松寺・赤門通

大須、萬松寺は古くより盛り場として名あり、赤門通は最近出來たものであるが三者一帶となり映畫館、寄席、娯樂演藝場、食堂、喫茶店等商店に混り多數存在し消費者大衆の娯樂場であり、散歩街である。之等何れも軒先の裝飾を一定し、或は揃ひの廣告燈を用ひる等街の美化に統一あることは來遊客の眼を喜ばしめると同時に、同地域一帶を生彩あらしむるものとして特筆に値する。一日約十萬人の人間を惹きつけてゐる。

其の他にも圓頓寺通、熱田傳馬町、仲田通、大松通、代官町、東大曾根町等市内には多數の盛り場商店街が存する。

昭和十七年十一月十五日印刷
昭和十七年十一月二十日發行

名古屋市中區大池町四丁目一番地
名古屋商工會議所
奥野平

名古屋市中區千早町五丁目十六番地
中尾五郎

名古屋市中區千早町五丁目十六番地
(中愛6) 株式會社 一誠社

名古屋市中區大池町四丁目一番地
名古屋商工會議所
電話中③代表一一八一番
振替 名古屋 五〇〇〇番

文協承認番號 ア六〇一三二 名古屋の產業

917
448

製本控

917 函	448 號	年 月 日
名古屋ノ產業	名古屋商工會議所編	1冊
備考		

602.15
N27
3

終